

[課程-2]

審査の結果の要旨

氏名 神谷 諭

本研究は、これまでの先行研究で結果が一貫していない脳卒中の **weekend/off-hour effect** (週末や診療時間外に診療を受けた患者では平日や診療時間内に診療を受けた患者よりもアウトカムが悪くなる現象) が我が国で存在するか否かを、診断群分類に基づいて評価される入院一日あたりの医療費の定額支払い制度 (DPC/PDPS) データを用いて検証したものであり、以下の結果を得ている。

1. 時間外受診群は、診療時間内受診群よりも、年齢が若く、受診時の意識レベルが低く、救急車の利用割合が高かった。また、退院時神経学的予後は、診療時間内受診群よりも時間外受診群の方が重症である割合が高かった。
2. 受診時の意識レベル以外の患者・施設背景因子を調整した多変量解析モデルでは、時間外受診は退院時神経学的予後が不良である割合を有意に増加させていると考えられた。しかし、受診時の意識レベルを含めた多変量解析モデルでは、この関係は有意には観察されなかった。
3. 受診時間帯と受診時の意識レベルの交互作用項を考慮した多変量解析モデルでは、意識清明患者の時間外受診で退院時神経学的予後が悪くなる **effect** が、昏睡患者の時間外受診で退院時神経学的予後が良くなる逆向きの **effect** が観察された。

以上、本論文は、我が国の多施設の DPC/PDPS データを収集・解析し、脳卒中の **weekend/off-hour effect** には時間帯による受診患者の重症度の差が関係していることを明らかにした。本研究は、**weekend/off-hour effect** の議論の進展に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。